

	<p>2016年 1月15日 第112号</p> <p>発行：いたばし水と緑の会事務局</p> <p>年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会 <a href="http://homepage3.nifty.com/mizutomidorinokai/">http://homepage3.nifty.com/mizutomidorinokai/</a> E-mail : <a href="mailto:mizumidori@nifty.com">mizumidori@nifty.com</a> 〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 tel&amp;fax3969-7124</p>
---	---

# 赤塚梅まつりに出展します

3月19日(土)・20日(日) 10時から3時まで。

改修したトンボ池前で みんな来てね。

私たちは2000年から毎年梅まつりに参加してきました。ビオトープ池を理解してもらうことと、赤塚城址周辺の自然を紹介することが主な目的です。ビオトープ池といっても珍しい生き物が出たり入ったりするわけではなく、いたって地味なのですが、この時期は冬眠から覚めたヒキガエルが池に来て卵を産むので、彼らがビオトープ池の主役？です。

また、子ども達のために「ノコギリ体験」をしています。公園の剪定枝や竹林の地主さんにいただいた竹をノコギリで切って、竹は花入れや鉛筆立てに、枝は輪切りにして絵を描いてもらい、金具とリボンをつけてペンダントにするのですが、子ども達は寒い中でもていねいに時間をかけて絵を描き、結構人気があります。子ども達が工作をしている間に、池の生き物の話をしたり、昔の自然の様子を覚えてもらったりの情報交換の場にもなっています。



# 赤塚トンボ池を再生しました

これまでのトンボ池は、水をたたえ、木々に囲まれた静かな自然の池のようでしたが、小さな生き物がすめない池でした。トンボのヤゴも、オタマジャクシも育ちませんでした。私たちはいろいろ試してみましたがお手上げでした。昨年、損保ジャパン日本興亜環境財団の助成金をいただき、さまざまな課題をもったトンボ池をどうしたらよいか、ビオトープの整備や管理に詳しい、水研クリエイティブ（株）にお願いし、相談し、試行しながら再生した池がついに完成しました。自然が相手のことなので、うまくいくとは限りませんが、「これなら行けそうかな」と期待しています。トンボ池は次のような目的で再生しました。

## (1) 小さな生き物が外敵から身を守り住める空間

小さな生き物とは、トンボのヤゴとオタマジャクシを考えています。外敵とは、カルガモ、ザリガニです。広い面積があれば、小さな生き物もどこかに居場所があるかもしれませんが、狭いトンボ池で小さな生き物が身を隠せる工夫が必要です。外敵生物の居心地を悪くし、外敵から身を隠せる水草が生育しやすい浅い池にします。

また、トンボ池は来園者の多い公園にあり、釣り堀池が近くにあるため釣った魚の放流などが絶えません。小さな生き物の生息空間として維持し続けることにより、釣り人や来園者にも趣旨を理解してもらえるようになると思います。

## (2) 高齢者でも楽しくラクラク維持管理

ボランティア活動する世代も高齢化しています。大きな泥深い池では捨てられたゴミを拾うのも大変でした。足を取られ管理作業にも難儀していました。小さな棚田がつながった浅い池では、高齢者でも女性でもこまめな管理が出来ます。

## (3) 来園者が眺めてほっとする湧水の流れ込む水辺

湧き口から引いてきている水でも、湧き水を目の前で見られるなんてすばらしいことです。作業をしていると通りがかりの人に「今湧き水はどうなっているの」と質問されたり、「自然を残してほしい」と話しかけられたりします。清らかな水が目の前で流れ込んでいけるのを飽きずに見ている人や、付近に昔あった湧き水の話をして下さる方もいます。

## (4) 湧水量0~9リットル/分(雨が降ればもっと増える)の対応策

もとは、池の水面が高く設計されていたため、排水口は地盤の高い位置にあります。雨が降ると湧水量が増えるとともに周辺の雨も集まりますが、排水口に届かないので、水がよどみへドロが堆積し、アオコが水面を覆っていました。一方で平常時の水量は減少しています。水道水では考えられない悩みです。

棚田では、湧水量に応じて水が溜まるようになります。水が少ないとき、最上段の棚田1の水をまず確保します。棚田1が満水になり、棚田2、3、4と段々に流下し、水が少ないければ下の方の棚田は湿地~乾いた状態になります。また、一部を深く掘って水を溜め、かつ浸透する浸透池をつくることにより、台風時の水量にも対応します。

うまくいくといいのですが・・・

### 池づくりの最後の作業から（2015年12月19日）



写真左 繁茂したショウブの根の掘り起こし。

写真右：棚田3，4，5の土入れ、踏み固め、畦の造成（次頁完成図を見てください）

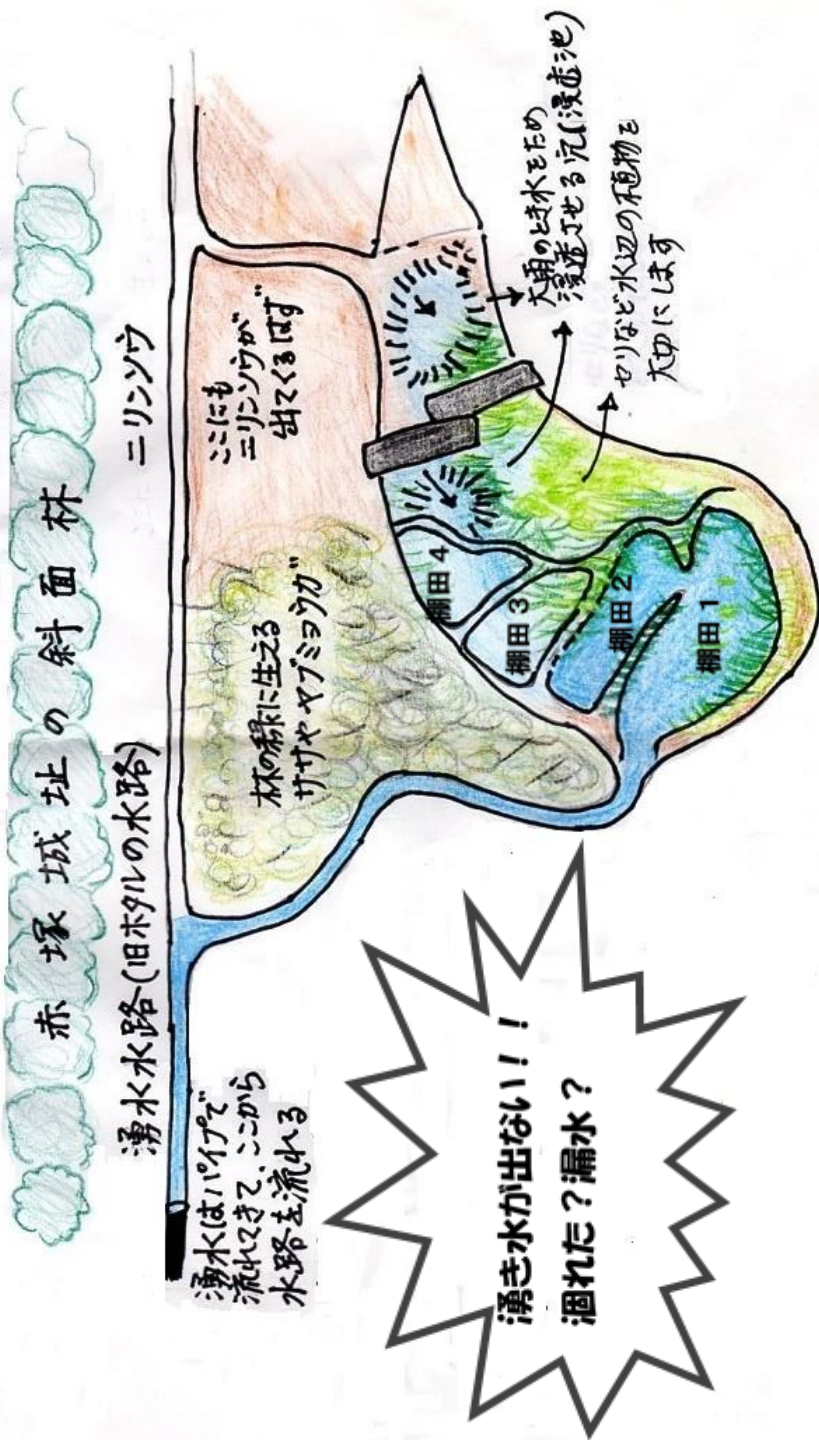
### 池の生物調査から（2015年11月19日）



左上はトンボヤゴとギンヤンマのヤゴ。放流された生き物：エビ（右上）、ウシガエル（左）、ヒメダカや小魚もいた。ザリガニは大から小まで繁殖し、干上がった棚田にはザリガニの巣穴もあった（写真右下）。

# 再生したトンボ池の形

## トンボ池 浅い湿地が理想です



湧き水が出ない!!  
涸れた?漏水?

## 心配な湧水量の減少

トンボ池の水はパイプで引いてきた水であっても、水道水ではなく湧き水です。このことは大変大きな意味があります。だから目立つ場所で池に流入しています。

水源が湧き水であることを知っている人もたくさんいます。またこれまで湧き水が出たり出なかったりしていたので、ちょっと立ち止まって湧き水が出ていることを確認する人もいます。ところが12月、池がいよいよ完成というときに、湧き水はまったく池まで届かなくなりました。

水源は不動の滝の向かいの山（浄蓮寺）の下にあり、そこから歩道の下を通り、水路（ホタルの水路）を通して美術館の裏までパイプで来ています。以前はホタルの水路は地表を流れていましたが、漏水がひどく維持管理が困難なことから26年度予算でパイプにいただいたので、理屈では湧き水が100パーセント、そのままトンボ池の裏まで到達するはずでした。しかし湧き口から池までは200m以上はあり、水が流れる勾配もゆるく、道路下の導水管も老朽化しており、トンボ池の自然らしい風景の楽屋裏は結構あやうい状態でした。

12月25日環境課の職員と会の山田さんと坂本が水源を調査しました。前日降雨があり、水源マンホールの湧水量は12リットル/分+ $\alpha$ 、直ぐ下の柵で9リットル/分（写真右の湧水）とこの短い区間で3リットル減。柵には浄蓮寺から来る湧水3リットル/分（写真の左）も加わり、合計12リットル/分が道路下を流下。しかしセブンイレブンの前のマンホールでは水量は0でした。つまりセブンイレブンに到達する前に湧水12リットルが漏水したということです。



マンホールの近くの石垣の下からは変わらずに水が出ています。環境課では柵の水量を計測していないので、湧水量がいつ頃からどれだけ減少したのかはわかりません。25年に、道路下の漏水により水量が著しく減少したことがありましたが、26年は池田園の裏で毎分15リットル前後の水があったということなので、湧水量も減少しているようです。

環境課ではどうするか検討中だそうです。

湧き水が人知れず消失したということによく聞きます。が、トンボ池の湧水は多くの人が見守っています。板橋区の水循環のシンボルです。がんばってほしいです。（坂本 郁子）

## アカスジキンカメムシ ささやかな私の発見

カメムシはうっかり触ると臭い。だからあまり好かれない虫かもしれません。アカスジキンカメムシは、2cm弱で割合大きく、緑に赤い模様のある（幼虫は黒、白）のはっきりした柄のきれいなカメムシです。派手で目立つということもありますが、赤塚公園や私の住む中台あたりではよく見かける虫です（次頁写真左が成虫、右が5齢幼虫）。



赤と緑の成虫（左）よりも、白黒の幼虫（右）をよく見かけます。変態して姿がすっかり変わってしまう昆虫はやっぱりですね。“カメムシは不完全変態といって、生まれたときから成虫と同じ形だが、羽は無い。脱皮しながら大きくなり羽も生えてくるが、サナギの時代を経ること無く成虫となる”ということは知識としては聞いていても、なかなかピンときませんでした。

カメムシは何回も脱皮をくりかえしますので、脱皮殻が見つかるはずですが。観察会の時に瀬田さんが脱皮殻を見つけました。私も自宅のそばで見つけました。

2015年10月初め、私の住んでいるマンション（中台）の壁に小さな虫が止まっていました。スパンコールのような小さなきらきらした虫で、何の虫かわかりませんでした。大分たってからそれがアカスジキンカメムシの2齢幼虫だとわかりました。なるほど金カメムシ、宝石のようです。生き物ってすごいなあと思いました。以前に撮影した3齢(?)の幼虫の写真もありました。赤と緑でこれも少しキラキラしています。

さて、この秋は、自宅のそばで白黒の幼虫（5齢）をよく見かけました。この白黒の幼虫のまま落ち葉の下などで越冬するそうです。動いているのもいましたが、転がっている死骸もたびたび見かけました。冬を越すことは虫たちにとって試練なのですね。みんなが寿命を全うすることはないと知っていても、はかない命を思います。10月の末の寒い日が続いたころ、あじさいの葉の裏に白黒の幼虫が7匹固まっていた。さては早々と越冬か？、冬に落葉したらどうなるのか、と気をもんでいたのですが、10日ほどでいなくなりました。子どもがいたずらして解散させられたのかと詮索しましたが、自然に集まったりすると書いてあるものもありました。

アカスジキンカメムシは広葉樹の葉や実の汁を吸うそうです。私が自宅近くでよく見かけたのはコブシの木があるからかもしれません。彼らはこんな住宅地でも、私の知らないところでしっかり生きています。よく考えると不思議です。そして興味が湧きます。小さな虫達が、集合し、越冬して、繁殖の相手を見つけて卵を産むなんてすごい能力です。

次頁の写真は私が見たアカスジキンカメムシの七変化です。モノクロでわかりにくいですが、ホームページではカラーです。ついでにアカスジカメムシというのもあります。これは赤と黒のはっきりした縦縞もようです（坂本 郁子）。



写真左上：アカスジキンカメムシ2齢幼虫、 右上：3齢(?)幼虫

写真左下：抜け殻(背中が破れている) 右下：なぜか幼虫が集団でアジサイの葉の裏にいた

## ドキュメンタリー映画「小さき声のカバン」 上映と講演会のご案内

日時：3月12日(土)

場所：グリーンホール2階ホール

講師：満田夏花氏(国際環境NGO F・o・E(地球の友)ジャパン理事)

参加費：1000円

主催：NPO法人センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

3月11日は、福島原発事故から5年になります。放射能汚染も健康被害も収束したかのような空気のなか、子ども達の安全を守るために動き始めたお母さん達のドキュメンタリー映画です。水と緑の会もこの上映と講演会に協力しています。

# 活動のお知らせ

運営委員会：1月23日（土）、2月27日（土） 12：30～13：30

作業・観察会の後に報告や活動内容などを相談します（ラーメンしらかば）。

連絡先；坂本（090-4618-1295）

●会報の発送は奇数月。お手伝いできる方はよろしく

日時：3月26日（土） 12：30～

活動の問い合わせは事務局 瀬田（3969-7124）まで

## 1 環境なんでも見本市（場所：エコポリスセンター）

2月6日（土） 13：00～16：30

2月7日（日） 10：00～16：00

私たちは冬に見られるありふれた動植物の写真を展示します。

## 2 いたばし・まちの環境発表会（場所：エコポリスセンター）

2月20日（土）～28日（日）パネル展示（水とみどりの会はパネル展示に参加します）

2月28日（日） 13：00～16：30 基調講演と口頭発表

## 3 赤塚梅まつり（いたばし水と緑の会はトンボ池前で展示と工作）

3月19日（土） 9：30～15：00

3月20日（日） 10：00～15：00

開催時間はいずれも10時ですが、準備のため早めに来て下さい。

持ってくるもの：寒いので暖かい飲み物、

## 4 赤塚ビオトープ（赤塚トンボ池、大仏下ミニトンボ池、バッタ広場）の環境整備と観察

いずれもトンボ池前集合。

状況を見ながら手入れ内容を検討します。作業は1時間程度として、時間が許せば引き続き周辺や他のビオトープの観察をします。関心のある方は事務局にご連絡下さい。

1月23日（土） 10：00～11：00 11：00～12：00 観察会

2月20日（土） 10：00～12：00 11：00～12：00 観察会

2月27日（土） 10：00～11：00 11：00～12：00 観察会

集合はいずれも赤塚トンボ池前（板橋区立美術館そば）

## 5 日暮台公園樹林地の観察プラスα

（樹林地内の推移と林縁植物を観察、様子を見て林縁の草取りなど）

2月13日（土）、3月5日（土）いずれも10：00～11：30

日暮台公園前集合